E 14　家政学における　家族社会福祉領域への開発

ヒューマン・エコロジー研　松田　武美子

目的　家政学の研究は，人類の福祉増進が　最終の終着点である。現代社会の物質文明のなかで生きている日本人に，ヒューマン・マインドの，ノーマライゼーションは困難であるが，21世紀への世界的な流れとして　工業先進国では認識されつつある。冷えた社会に灯を掲げ，共生可能な社会のあり方を　家族福祉の展開を進めることによって可能性をさぐる。

方法 1. 家政学と家族社会福祉のかかわり

2. 日本における社会福祉の現状と問題点.

(1) 社会保障の構造

(2) 公的扶助制度

(3) 老令保障

(4) 社会福祉サービス

(5) 障害者問題　(6) 児童福祉

(7) ノーマライゼーションについて

まとめ

結果　61年度より転換した福祉政策の実施は，今後増加する長寿年金者に対し，大きな不安を抱かせている。所得(年金)保障をはじめ，医療，雇用，住宅などの保障が不充分なもので，在宅ケアが中心で進められている。中間施設の大幅な財政投資があっても，果してどれだけの人が，在宅ケアと中間施設で，充分な先後保障が可能であろうか。所得格差の拡がる進化，家族の崩壊(物質，内体，精神)に答えられることは今後は不可能になるであろう。